

(1) 人口対策

中播磨地域は、郡部を中心に全域で人口が減少（2005→2040年：18.3%減）し、特に20歳代の流出が顕著となっている。進学、その後の就職を機に地域外に流出する傾向が続いているが、一方で、ものづくり産業を中心に優れた中小企業が多く、企業と就業希望者とのマッチングが進めば、若者の地元定着も増えることが見込まれる。

また、中播磨地域の雇用を支える役割として、ものづくり産業だけではなく、農業、観光、医療、サービス産業の雇用も相当数見込め、将来に渡り活力ある地域社会を構築していくためには、若者にとって魅力ある雇用の場の創出、地元への定着・移住など人口対策を進めることが急務となっている。

さらに中播磨地域の資源である人の輪、地域の力（自治会組織率99.6%）を活かして、こどもが元気に育ち、みんなが安心して暮らすなど、交流による元気な地域を目指す動きがあり、県民とともにこれを実現することにさらに力を入れ、暮らしやすい地域づくり、住環境の向上を目指すことで定住を促進する。

① 対応の方向性

ア) 進学を機に大都市圏等へ転出した若者が、就職時に地元に戻れるよう、地元のものづくり産業を中心に優れた技術力や将来性をアピールするなど企業と人材のマッチングを積極的に行い、若者の地元就職を促進する。

また、農業における新規参入の促進、就農定着のための農地確保や後継者育成、製品の販路開拓などの支援を行い就農等の拡大を図る。

イ) 家庭や地域の力が弱まりつつある中で、中播磨地域の資源である「人の輪」のつながりを強化するとともに、安全・安心な暮らしの環境づくりを進める。

これらの取組と全県単位での人口対策の相乗効果により、若い世代が安定した就業と生活のもと、将来に希望を持って、結婚、出産し、安心して子育てをすることができるふるさとづくりを目指す。

② 具体的な取組

ア) 若者の地元就職の促進

地元からの人口流出を食い止めるため、最も対策が求められる 20 歳代をターゲットとした地元就職促進策、就業支援策が重要であり、企業と人材のマッチングや中小企業の認知度の向上、UJI ターンしやすい環境づくり、農業等での若者の雇用の場の拡大等に取り組む。

【 参考：今後検討を進めていく主な K P I（重要業績評価指標）及び事業 】

総括的な K P I

- ・中播磨の新卒高校生の管内就職割合：60% [H25：48%]
- ・中播磨地域における認定農業者数（農業の担い手）：95人 [H26：88人]

- ・中播磨の若者の転出入超過数 15～19歳：▲100人 [H26：▲120人]
20～24歳：▲320人 [H26：▲402人]

主な事業・KPI

(1)企業の人材確保支援

- ものづくりを支える人材確保支援事業（地元高校生を対象としてきた地元中小企業紹介セミナーを大学生にも拡大）
：播磨全域から参加企業（10社）、参加人数（高校生300人・大学生600人）
- 各種就職相談会・面談会の開催（正社員就職面接会 in HIMEJI、姫路地域わかもの就職説明会等）
：開催数（9回）、参加企業数（約400社）、参加人数（約2,000人）

(2)UJIターン対策

- ◎大都市圏の大学キャリアセンター（就職部）と連携した地元企業PR作戦（地元の大学生が直接取材した、学生目線による地元企業の魅力をまとめた冊子を各大学に配付等）：対象企業数（20社）、配付大学数（20校）
- ◎理系大学生を対象とした「中播磨地域ものづくり企業見学ツアー」の実施
：実施回数（5回）、参加人数（200人）
※理系大学生に管内ものづくり企業の現場を見学してもらうとともに、そこで働く先輩技術者等との交流・意見交換によりものづくりの魅力をアピールし、中播磨地域での就職を促進する。
- ◎姫路市の中小企業が開催する大阪等の都市部での就職説明会への支援（会場費・PR経費の助成等）：開催数（大阪1回、京都1回）
- ふるさと人材確保支援事業（大阪、広島、福岡、徳島など西日本各地の都市部での合同説明会の開催、ふるさと企業就職活動助成金の対象地域に神崎郡を追加）
- 都市部の中小企業が県外からの求職者に対してインターンシップ等を行う場合の支援制度の創設

(3)若者の雇用の場の確保と能力向上

- 地域農業の担い手育成「野菜増産大作戦事業」：新規流通件数（13件）
地元飲食店等の実需者と若手農業者を繋ぐ受発注・集配システムの充実による販路拡大に加え、新たにパイプハウス等の設備や農業機器の導入経費を補助。若手農業者の周年安定生産を支援。
- 新規就農の支援：全県新規就農者数（5年間で1,900人（雇用就業：950人、独立就業：950人））
 - ・新規就農コーディネート強化事業（ひょうご就農支援センターによるワンストップ相談窓口設置、就農指導）
 - ・農業施設貸与事業（市町等が園芸施設等を整備し新規就農者にリースする事業を補助。新規就農者の初期投資の負担軽減を図る。） など

○中播磨木造インターンシップによる技術継承支援

：実習参加者（延べ125人（H27～31））

地域の木工、左官、瓦葺き等職人組合と協働し、若年技術者に伝統的木造建築技術の伝承機会を提供。さらに、林業、銀の馬車道沿線の景観形成、空き家活用等他施策との連携により伝承機会の拡大を図る。

イ) 暮らしやすさNo. 1のふるさとづくり

しごとと並び地域への定住を決定づける要因である暮らしやすさを高めるため、子どもや若者のふるさと意識や地域への愛着の醸成、医療・福祉・健康ネットワークの構築や安全安心のまちづくりなど、暮らしやすいふるさとづくりに重点的に取り組む。

【参考：今後検討を進めていく主なKPI（重要業績評価指標）及び事業】

総括的なKPI

- ・住んでいる地域は子育てがしやすいと思う人の割合（県民意識調査）
：60% [H26：48.7%]
- ・健康寿命（県健康づくり推進実施計画中播磨圏域計画）
：男性78.25歳、女性83.67歳 [H25：男77.25歳、女82.67歳]
- ・地域の災害に対する備えは以前より確かなものになっていると思う人の割合（県民意識調査）：45% [H26：31.9%]

主な事業・KPI

(1)ふるさと意識、地域への愛着の醸成

◎子どもの伝統文化伝承活動への助成

：開催数（5回）、参加人数（各20人）、対象（幼稚園～高校生）

◎子どもの郷土玩具、甲冑等の制作体験を指導する講師を派遣

：開催数（10回）、参加人数（各20人）、対象（幼稚園～中学生）

○地域づくり活動応援事業（一般枠・特別枠）：応募数（40件）

（地域団体等が実施する地域の課題解決や地域資源を活用した地域活性化の取組を支援）

○地域活動交流メッセの開催：参加人数（4,000人）

（地域づくり活動発表会、パネル展示、地域の特産品見本市など）

◎地元プロスポーツチームの活動支援

地元市町、商工会等と連携し後援組織を結成するなど、地元で頑張るプロスポーツチーム（女子サッカー「ASハリマアルビオン」等）の活動を盛り上げ、地域の一体感を醸成

●「出会いサポート」はばタン会員登録推進員の設置

（県内事業所に広く制度をPRし、事業所の福利厚生プランとして会員登録を促進）

(2)安心の医療・福祉・健康ネットワークの構築

●循環器病センターと広畑病院の統合推進

○病院合同就職説明会、看護系学校合同進学説明会

：開催数（1回/年）、参加機関数（約60機関/年）

○地域包括ケアシステム推進の支援

：開催数(約10回/年)、参加機関数（約70機関/年）

○中播磨”はばたけ授産品コンクール”の開催

：開催数（1回/年）、参加機関数（約20機関/年）

食品を対象に管内障害者授産施設の授産品コンクールを開催。授産品を広くPRし、販路拡大を支援。新たに、工芸品を対象に加え、一層の販路拡大を図る。

○地場産品もちむぎの機能性（豊富な食物繊維、血圧上昇抑制、血中コレステロール低下）を活かした食品の普及と産地育成に向けたフォーラムの開催：開催数（1回/年）

(3)安全・安心のまちづくり

○南海トラフ巨大地震対策

- ・津波防災インフラ：八家川水門、姫路港中島護岸補強等
- ・橋梁耐震補強：生野橋等11橋梁完成

○風水害対策

- ・山地防災・土砂災害：福田川等砂防・急傾斜（22か所完成）、土砂災害特別警戒区域指定促進
- ・治水対策の推進：市川（阿成工区完成、砥掘暫定対策完了）、船場川（姫路競馬場調節池完成）
- ・ため池等整備事業：施工箇所数（17か所）

○地域防災力向上対策

- ・防災道路強靱化：西脇八千代市川線〔上瀬加〕等9か所完成
- ・インフラ・メンテナンス：排水機場・水門（早期対策（A）3か所完了）、橋梁（早期対策（特A）10橋梁完了）
- ・ため池安全・安心定期点検の実施：参加人数（400人）
- ・地域住民の防災・減災意識の啓発（講演会等実施）
：開催数（1回/年）、参加人数（200人/年）
- ・地域防災活動の活性化（中播磨防災リーダーのスキルアップと実践活動の展開）
：フォローアップ講座受講者数（防災リーダー150人）、地域防災活動参加者数（地域住民300人）

○便利で快適な公共交通の実現

- ・駅周辺アクセス道路の整備促進
：JR福崎駅（甘地福崎線〔福崎駅前〕完成）※駅前広場完成（町施行）

JR香呂駅（宍粟香寺線〔第二西川踏切安全対策〕完成）

- ・地域公共交通（コミュニティバス等）への運行支援
：普段はできるだけ公共の交通機関を利用する人の割合（44%）
- ・バス路線の利便性・安全性の向上
：岩屋生野線〔岩屋〕、大柳仁豊野線〔東〕完成

(2) 地域の元気づくり

中播磨地域は、広大な播磨平野を擁し、北部は中国山地を形成、南部は瀬戸内海に面する多彩な自然に恵まれた地域である。東西には、中国自動車道、山陽自動車道、国道2号線バイパスを幹線として国道2号・375号線が、南北には、播但連絡道路を幹線として国道29号・312号線が整備され、多くの主要地方道で県内各地とつながっている。また、JR山陽新幹線・山陽本線、山陽電車本線が東西に走り、JR播但線・姫新線が都市部と山間部を結んでいる。国際拠点港湾である姫路港は国内外の貿易に利用され、家島諸島・小豆島への旅客船が就航しているほか、大型客船が寄港できる旅客ターミナルを備えている。

臨海部には鉄鋼・化学等の素材産業と電気機械・一般機械等の加工組立型の製造業が集積し工業地帯を形成、内陸部には高速道路沿いの工業団地を中心に電気機械・一般機械の企業が集積しており、工業出荷額は全県の約17%を占め、東播磨地域、神戸地域に次ぐ第3位となっている。また、商業面でも、商品販売額は全県の約12%を占め、神戸地域、阪神南地域に次ぐ第3位となっている。農業は都市近郊の立地を活かし新鮮で安全な農産物を地域に供給、水産業は漁船漁業と養殖業を組み合わせた安定的な経営が行われ、森林資源も豊富である。瀬戸内海国立公園、県立自然公園など、各地に体験型施設が整備されているほか、世界文化遺産姫路城、生野銀山と姫路港を結ぶ日本初の高速産業道路「銀の馬車道」、黒田官兵衛ゆかりの地など歴史・文化遺産が豊富な地域である。

こうした姿の中播磨地域は、まさに兵庫西部の拠点であり、平成27年には、姫路市を中心として8市8町が連携し「播磨圏域連携中枢都市圏」が形成されたことから、今後、播磨全域を視野に入れた取組が期待される。

しかし、様々な地域資源がバランスよく整い、暮らしやすい環境が整っている反面、中播磨地域を象徴する一歩抜き出た要素が見えにくく、地域創生に向けて地域の元気づくりを推進するにあたっては、「ものづくり」や「農林水産業」、「観光・ツーリズム」の推進を基軸に、地域の優れた資源を際立たせ、ブランド化を図っていく必要がある。

① 対応の方向性

- ア) 産学連携により地場産業である「ものづくり」企業の競争力を高めるとともに、企業活動を支える社会インフラの一層の充実を図ることにより、地元企業の業務拡大、新たな企業の立地、大都市圏からの本社機能の移転等の原動力につなげる。
- イ) 地域性・ブランド性の高い農林水産物・加工品の開発や6次産業化、農林漁業体験プログラムの開発等により、農林水産業の活性化を図ることを通じて、都市

と農山漁村の交流を拡大する。

- ウ) 多様な視点で特徴ある観光資源を確立するとともに、播磨全域を視野にテーマ性・ストーリー性を持った「広域観光周遊ルート」を形成することにより、観光拠点としての播磨のブランド力を高め、通過型から滞在型へ、観光・ツーリズムの新たな展開を図る。

② 具体的な取組

- ア) 播磨を支える産業競争力の強化及び産業インフラの構築

ものづくり中小企業が、大企業からの多様なニーズに迅速・的確に対応しうる技術力を備え競争力を高めていくため、兵庫県立大学や SPring-8 など、地元の学術・試験研究機関等との連携強化を図る。

併せて、道路、港湾施設等の物流環境やエネルギー環境の整備促進により、産業立地の魅力を高め、地元企業の活性化や新たな企業の進出を支援する。

【 参考：今後検討を進めていく主な K P I（重要業績評価指標）及び事業 】

総括的な K P I

- ・ 県立大学の管内企業との共同研究件数：20 件〔H26：10 件〕
- ・ 中播磨における新規・増設企業立地件数：10 件〔H26：9 件〕

主な事業・K P I

(1) 産学官連携の推進による企業の経営革新

○産学官連携による「産業力」強化

- ・ 「企業・大学・学生マッチング」事業
：参加人数(650人)、参加企業数(50社)
(製品や技術、研究シーズの展示・発表、合同企業説明会の開催)
- ・ (新) 研究室ツアー事業 (ラボ交流ツアー)

産学連携に興味のある企業が大学研究室を訪問、研究装置を見学、意見交換を通じて双方のシーズ・ニーズのマッチングを図る。

◎大企業とのマッチングによる地元企業の販路拡大(大企業のニーズと中播磨の中小企業の技術をマッチングするための商談会開催)

- ：参加企業数(大企業3社、中小企業20社)

◎ものづくり大学校を活用した中小零細企業支援

- ：研修会開催数(30人×3回)

ものづくり大学校が従来から実施している在職者訓練をさらに発展させ、県立大学教員と連携し、最新のものづくり技術や情報処理技術に関する座学に加え、その技術を実践する実技訓練の場を提供し、地域の中小零細企業の中堅技術者のスキルの向上を図る。

◎播磨全域の産業活性化、産学連携推進のためのサロンの形成

- ・ 大学研究者等の定期的な勉強会に企業の技術者の積極的な参加を促し、産学連携の機運を醸成：勉強会開催数(年6回)
- ・ 中播磨地域の産業活性化に有用な研究テーマ(次世代水素エネルギー等)

を設定し、「産」「学」共同で研究：研究会開催数（4回）

(2)多様な産業活動を支える社会基盤の充実

◎「地方拠点強化税制（本社機能立地支援措置）」に基づく地域再生計画の策定

○播磨臨海地域道路の早期実現

○地域間交流を促す道路の整備促進

：岩屋生野線〔岩屋〕、久畑香呂線〔恒屋〕、大柳仁豊野線〔東〕完成

○姫路港における港湾機能の充実（岸壁・埠頭用地の整備）

：整備面積等（岸壁（-14m）：280m）（埠頭用地：4ha）

●姫路港周辺エネルギー自立構想の検討

●循環器病センターと広畑病院の統合推進（再掲）

イ) 都市と農山漁村との交流拡大

都市近郊の利点を活かして、都市部住民との交流拠点を整備するとともに、地域の商工業との連携等によりブランド力のある地域産品や農林漁業体験プログラム開発を進め、消費者をはじめ、加工・流通業者、販売業者、サービス業者の連携による農林水産業を活かした交流拡大を図る。

【参考：今後検討を進めていく主なKPI（重要業績評価指標）及び事業】

総括的なKPI

- ・中播磨地域における都市農村交流施設利用者数：700千人〔H25：575千人〕
- ・中播磨地域における農産物ブランド戦略策定品目数
：12品目〔H25：8品目〕

主な事業・KPI

(1)生産者と消費者の交流の場づくり

◎食と農で結ぶ夢街道づくり事業（県道姫路神河線沿線）

：観光客数（53万人）

夢前スマートインター（H27年9月供用開始）付近にアンテナショップ設置（観光案内・特産品販売）、田宴アート実施、プレミアム商品券発行等

◎ハーブを活用した姫路市山之内地区博物館(仮)づくりプロジェクト事業：交流会参加人数（1,500人）

「食と健康と文化の山之内」をコンセプトに、地元産ハーブ等を用いた菓膳料理レストラン、「食の学校（健康料理等）・農の学校（収穫体験等）」、機能性食品開発等を展開

(2)中播磨の魅力ある農林水産ブランドの確立

◎6次産業化事業者販路拡大支援事業：商品開発数（10件）

・コーディネーターによるマッチング支援（商工会議所等商談会への参加、

マーケティング指導)

- ・モニターによる商品開発支援（消費者によるモニタリング、専門家によるアドバイス）
- ・商品改良等への支援（経費補助）

○ “播磨灘産カキ” PR大作戦事業：商談件数（50件）

良質で加熱しても縮みにくい播磨灘産の大粒生カキ、大粒冷凍カキを「播磨（仮称）」として首都圏・京阪神でPRしブランド化。さらに、種苗の採取から生ガキ生産までを播磨灘で行う“純播磨灘産かき”（「播磨プレミアム」仮称）の生産を目指す。

○ 秘めたひめじの前どれ再発見事業（前どれ水産物を活用した新たな特産品開発）：商品開発数（5件）

あまり流通していない水産物や、流通しているものの知名度が低い水産物について、順次、メニュー開発・加工品開発を推進。販路拡大を図るとともに、特産品として観光振興に活用する。

今後の開発予定品目（ハモ、サワラ、カラスミ、サーモン、アユなど）

○ 家島諸島～四十四島と漁業の魅力～の体感・体験プログラム開発事業：開催回数（15回）、参加者数（600人）

新たな観光資源として、家島クルージング、新鮮な魚介料理、漁業体験をプログラム化しモデル実施。今後、プログラムの充実・改良や設備の改善を進め、地元漁業協同組合による本格実施を目指す。

(3) 農山漁村の魅力の再認識

○ 地域再生大作戦の推進（アドバイザー派遣、地域活動支援等によりがんばる地域を応援）：実施地区（10地区）

ウ) 播磨ツーリズムエリアの形成

郷土の歴史・文化、産業遺産、映画・小説の舞台、ご当地グルメなどを活かし、播磨地域ならではのテーマ性、ストーリー性をもって特徴ある観光資源を結ぶ観光ルートを形成するとともに、地域住民等地元関係者を巻き込んで地域資源の磨き上げや地域間の連携を進めることにより、播磨のブランド力を高める。

さらには、播磨の玄関口である姫路駅を発着点とする多様な観光ツアーの展開や、海の玄関口である姫路港への大型クルーズ客船誘致などにより国内外から一層の誘客を促進し、地域を支える観光業の活性化を図る。

【 参考：今後検討を進めていく主なKPI（重要業績評価指標）及び事業 】

総括的なKPI

- ・ 中播磨地域における観光入込者数：12,000千人〔H26：10,022千人〕
- ・ 中播磨地域における観光宿泊者数：1,000千人〔H26：820千人〕

主な事業・KPI

(1) テーマ、ストーリーのある観光拠点の創出

◎マスコミ、インフルエンサー（世間に大きな影響力をもつ人や事物）、旅行会社を活用した、播磨全域を視野に入れた広域観光ルートのプロモーション展開：招聘ツアー実施回数（2回）

- ・播磨の温泉、城、産業名所、ブランド食、地元メシ、地酒体験のプログラム化
- ・姫路発着の観光ツアーを展開（滞在型、一日・半日、A級・B級）

◎観光拠点の創出：新規開発宿泊プラン利用者数（3,000人）

- ・「銀の馬車道・鉱石の道」日本遺産化支援事業

生野銀山を中心に竹田城、姫路城、銀の馬車道、飾磨港などを中世から近代のストーリーで繋ぎ日本遺産の登録を目指す関係市町の取組を支援し、観光資源をブラッシュアップ

- ・歴史と伝統のある地域のシンボル・景観の形成（「銀の馬車道」発着点：浅田化学レンガ塀）
- ・大河内高原等魅力発信事業（村上春樹ゆかりのノルウェイの森ロケ地と阪神間の小説のモデル地の連携、雪景色等の冬の魅力）
- ・家島、沼島、淡路ー神話ルート形成事業（神様が最初に造ったオノコロ島の神話）
- ・播磨ナンバーワン・オンリーワン産業ツーリズム発信事業（市川町アイアンヘッド等工場見学、SPRING-8、沿岸部工場夜景、姫路城瓦工場など）

(2) 姫路港、妻鹿漁港、家島港の観光利用

○姫路港観光プロモーション（国内・海外クルーズ客船誘致、多言語パンフレットの活用、Wi-Fiの整備）

：プロモーション実施回数（10回）、クルーズ客船寄港回数（2回）

○姫路港ふれあいフェスティバルの開催（夏版・秋版）

：参加者数（9,000人）

◎妻鹿漁港魅力アップ事業（直売所PR、シャトルバス運行、トイレ看板整備支援等）：直売所利用者数（300人/日）

◎家島港周辺に観光客を対象とする地元水産物提供・販売拠点を設置

(3) 海外観光客等の快適性・利便性の向上

○安全で快適な通行空間確保、優れた景観の保全・形成（無電柱化実施プログラムの推進）：和久今宿線、姫路停車場線完成

○道路案内標識の英語表記への改善：姫路神河線など約350枚完了